

令和5年10月20日発行

- 第26号 -

# とも たの 偕に楽しむ

小石川庭園後楽園保存会の皆さんと交流を深めました。



小石川後楽園庭園保存会の皆さんと。5月23日 園内涵徳亭(かんとくてい)にて

長く続いていた新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてきたため、かねてから計画していた東京小石川後楽園庭園の視察と同庭園保存会の皆様との交流がやっと実現できました。同会の皆さんとは、前回2019年11月に開催された第13回大名庭園サミットで共同開催という形でご一緒させて頂きました。またそれ以前にも、どちらも水戸藩の庭園であり、場所も比較的近いこともあり、頻りに交流を行っています。

## 軌道に乗り始めた会の活動

会長 三ッ石 敏

皆様、お元気でお過ごしでしょうか？ この度、広報・研修委員会の皆さんのお蔭で、会報「偕に楽しむ」第26号を届けることが出来ました。

令和5年度前半は、5月には恒例の「春のウォーキング」が実施され、水戸駅南から千波湖までの新しく出来た道路を歩きました。多くの方が参加され、水戸の新しい魅力を体験しました。「小石川後楽園への訪問」は、会として初めてのバス旅行で、参加者の親睦が深まり好評でした。7月には茨城県、水戸市との懇談会が行われ、偕楽園公園の整備状況について意見交換が出来ました。



11月には4年ぶりの大名庭園サミットが高松で開催されます。水戸の魅力、偕楽園公園の魅力を全国に発信してきます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸をお祈りしております。



## コロナウィルスの感染状況が落ち着く中、令和5年度定期総会開催



苗字について興味深いお話をされる高信幸男氏

今年度の定期総会は、4月18日に昨年と同じ県立歴史館講堂で開催されました。コロナウィルスの感染状況が落ち着いている中、防止策を取りながら開催いたしました。座席は間隔を取りながらも、67名の会員、来賓6名の参加者があり、マスク着用、手指消毒をお願いし、入場していただきました。林和男副会長の司会で定刻に始まった総会は、三ツ石敏会長の挨拶、来賓の高橋靖市長には教育遺産世界遺産登録推進に向けた取り組みを始め千波湖周辺のパークPFIについても触れたご挨拶をいただいた後、三ツ石会長が議長となり議事に入りました。

第1号議案令和4年度事業報告、第2号議案令和4年度決算報告に続き、役員改選のない今年度は令和5年度事業計画及び令和5年度予算案が審議され、いずれも滞りなく承認され議事は終了しました。

引き続き講演会が苗字研究家の高信幸男氏を講師に「あなたの知らない名字の世界」の演題で行われました。全国的にも高名な高信氏には、名字についての基礎知識から地元の水戸、更には茨城県に特徴的な名字についてお話をいただきました。水戸に多い名字には「塙」「人見」などがあり、珍しい名字には「部」「七字」などがあるとのこと。質疑応答に移り、聴衆の皆さんからは質問や意見が出され身近な名字について関心の高さを示しました。

事務局長 後藤克己

## 大名庭園民間交流協議会高松大会に向けオンライン会議に参加

今年度の大名庭園民間交流協議会大会(以下大名庭園サミット)は11月9日に高松で開催されますが、これに先立ち4月25日にオンラインで、2023年度の総会が開催され、会津を除く9団体の代表が参加しました。当会からは、私の他、郡司、林、岡野の各副会長が参加しました。総会では、大名庭園サミットの開催内容と開催までのスケジュールを確認しました。

今年度の大名庭園サミットは、開催地高松の意向もあり、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、まだ通常通りの開催には至らず、参加は各団体10名以内とし、全体で100名程度を見込むこと、また基調講演を行い、その後10分程度各庭園の発表、最後に大会宣言をまとめることなどを話し合いました。

当日は、大会開催前に代表者会議を開催することも決まり、加えて大名庭園の世界遺産登録への意見交換も行いました。世界遺産登録については、地域での温度差もあり、全体でまとまって行動することはまだ難しいが、継続して話し合うことを確認しました。

会長 三ツ石敏

### シリーズ「偕楽園の梅を知る(4)」

#### 回答は根本実継さん(元偕楽園公園課樹木管理支援員)

**質問** 偕楽園のウメで一番古い樹齢は何年位ですか。また、園創建当時のウメはまだ残っていますか。

**回答** 樹齢が300年といわれているウメの樹は全国にいくつかあります。樹の近くに生育に障害となる樹がなく、通風、日当たり条件が良ければ「樹命(寿命)」は永遠といえます。偕楽園のウメは、栽培間隔が狭く、植栽本数も多く、土壌病原菌の影響で、「樹命」は長くても百年と思います。偕楽園創建時のウメは、戦災や管理が行き届かなかった時期もあり、ほとんど残っていないと思います。現在見られるウメは、戦後の植栽がほとんどで、苗木からでは70~80年、移植樹では、100年生に近いものと推定されます。偕楽園では(推定)高齢樹を「金閣寺垣」※で四方を囲って保護をしています。※丸竹を用いた背の低い透かし垣で、金閣寺にある垣が原型とされ、名付けられたとされています。



相当の樹齢を重ねた烈公梅



# 会員研究ノート

## 偕楽園の魅力を手形から見つめるーその4

西原 昇治

私見ですが、偕楽園を創建した、水戸藩九代目藩主徳川齊昭公は相当地質にこだわっていたと思われる。偕楽園内の石碑などから勝手に齊昭公のこだわりを膨らませてみました。

### 偕楽園記の碑

偕楽園記の碑は弘道館記の碑と一対をなす碑といわれています。弘道館記の碑は純白の大理石、偕楽園記の碑は、伊豆石と称す黒色の安山岩です。巨岩をわざわざ伊豆の地から水戸に運んでまで建立した思いとは何だったのでしょ。伊豆石は江戸城の石垣に多く使われています。火山岩で硬質、風化すると赤色の鉄さびが溶出します。園内では仙奕台の琴石、弘道館の要石が伊豆石です。いずれも岩肌には赤さびが付着しています。



安山岩でどっしりとした風格を感じます

### 吐玉泉

表門から下り坂を進むと、崖の中腹に純白の岩の塊が目に入ります。園内唯一の水場、吐玉泉です。吐玉泉の岩質は、弘道館記の碑同様、大理石です。大理石は常陸太田市真弓山から切り出しました。元々南の島の珊瑚礁などが死滅堆積した石灰岩です。その後熱や圧力により、純白の地層に変成しました。岩質はカルシウム、弱酸性の水質によって岩肌が溶け、今は4代目の代替わりをしています。巖も溶かす水の力、齊昭公から学ぶ自然への思いです。吐玉泉の向かいには、常磐線を挟んで玉竜泉が噴出しています。水のエネルギーは二者同様、水を受ける形により、見る目が変わります。



湧き出す地下水により大理石の岩肌は溶け出します

### 仙奕台

見晴らし広場の恵まれた眺望に仙奕台は造られました。仙奕台の奕(えき)は囲碁の意味とされています。他にも異なる岩質の石材が置かれています。石質は蛇紋岩、常陸太田市の町屋石(まだら石)で、模様によって笹目、紅葉、ぼたんなど分けて呼ばれています。茨城県の他熊本県の二県で採れる貴重な岩石で、徳川時代には、お留め石とされて、持ち出しが禁じられていました。琴石は安山岩、砲台の台座の役割も有ったと言われています。他に枕状の片麻岩が場を飾っています。砲台の台座である安山岩以外は、常陸太田の山地から産出した岩石です。台座に偕楽園記の碑と同様の伊豆石、齊昭公の思いは如何なものであったか。



岩質を観察しています

### 水戸八景碑の石材(番外編)

水戸八景碑は常陸太田など県北から切り出した岩石を使用しています。儂湖暮雪(水戸市常磐町偕楽園内)は花崗岩、青柳夜雨(水戸市青柳町)は硬砂岩です。他に山寺晚鐘(常陸太田市稲木)一大理石、太田落雁(常陸太田市栄町)一片麻状花崗岩、巖船夕照(大洗町祝町)一大理石、広浦秋月(茨城町下石崎)一千枚岩、村松晴嵐(東海村村松)一硬砂岩、水門帰帆(ひたちなか市和田町)一大理石です。その地の思いと岩質のこだわりを深読みしたくなります。



# 常磐線の車窓から見える謎の洞窟「上市台地の洞窟」

令和5年度春のウォーキングでご案内した、謎の洞窟について掘り下げます。千波湖に近い上市台地の崖下は、水戸層と言われる泥質な地層が基盤をつくっています。偕楽園から水戸駅に向かう崖には、地図上で13カ所の洞窟が確認できます。洞窟は、笠原水道の岩樋(いわひ)として岩石を切り出した坑道の跡です。岩質は軟らかく、加工しやすいため、切り出しに適していました。坑口は、人ひとり出入りする広さですが、中に入ると蜂の巣状に広がっています。坑内では幾人もの作業員が岩を板状に加工して掘り出しました。切り出し場は、千波湖の岸辺です。目の前に舟を着けて、積み込み、笠原水源から吉田神社の崖下の、湖岸に運んだと思われます。余談ですが、これらの洞窟の一部が、水戸城に続いているという都市伝説を聞きます。地上に抜けるためには、大量の地下水に遭遇することになりますので、残念ながら当時の技術では、不可能と思われます。



岩樋採掘洞窟跡(民地内)入り口はコンクリートで閉塞されています

西原 昇治

## 委員会だより

### 令和5年度春のウォーキング報告～歩いて新たな水戸の魅力を発見 魅力向上委員会



茨城新聞にも紹介されました

令和5年5月14日に実施した春のウォーキングで、参加者は新しく開通した駅南から千波湖北湖畔を歩き新たな水戸の魅力を感じて頂きました。

当日は、水戸駅南口広場に集合、駅南口から一直線に広い道路が台地を抜ける景観を眺めました。続いて、千波湖畔の柳堤跡を歩き、千波湖面と一段高い地形を実感しました。常磐線沿いの崖に残る洞窟では、笠原水道の岩樋に利用するために切り出した歴史を解説しました。また、その先に広がる西の谷では、地層と水の関わりが谷をつくるお話をしました。さらに、

千波湖畔から偕楽園本園を眺めて、水戸の台地の誕生についてひもときました。最後に黄門像前で記念の集合写真を撮り、弁当を配布して無事2時間の行程は終了しました。

### 令和5年度「春のウォーキング」アンケートから

春のウォーキングに参加された皆様からご感想・ご意見、ご要望についてアンケートをとりました。紙面の都合上一部割愛させていただきました。

・集計総計：23名 ・お住まいの場所：市内:13名 県内:4名 無記:名6名  
・年齢：61才以上:22名 60才以下:1名 ・偕楽園公園を愛する市民の会：会員:5名 非会員:18名

アンケート内容

- 1 本日歩いて新たな発見がありましたか：有る:22名 無記名:1名
- 2 新たな発見ポイント:ポイントに丸を付け、コメントして下さい。(以下抜粋)
  - ① 駅南から見た景観：18名 ・坂だと思えます。駅南の坂がどーんと続いている風景
  - ② 柳堤と城郭：15名 ・ビックリした。
  - ③ 上市崖に観られる洞窟：15名 ・水戸城に続いていると思い込んでいました。 ・光藻はある洞窟に現在は入って見ることが出来ないのは残念。
  - ④ 千波湖から観た西の谷：10名 ・地形を再認識した。
  - ⑤ 千波湖から偕楽園公園を眺める:5名 ・良いながめ。な一るほど。
- 3 感想、意見、要望(抜粋)
  - ① 講師の西原様の説明が分かり易かった。 5名
  - ② 色々勉強になり楽しいウォーキングでした。3名
  - ③ 改めて、水戸の地形の成り立ちを知り、また、ゆっくり歩いて散策したいです。2名
  - ④ 勉強になりました。興味を持って自分でも調べてみたいと思います。 2名
  - ⑤ 知らないことばかりでした。水戸の町にもっと自負と知識を持ちたいと痛切に思いました。頑張ってください。スタッフの皆さんに感謝致します。
  - ⑥ 道路が新しく広がった。バスを通して観光ルートを提案しては如何ですか。



## 委員会だより

### 猛暑に負けず花パートナー活動を続けています。 魅力向上委員会



秋の成果願ってしっかりと面倒を見ています

今夏8月の降雨量を見ると、水戸地方はお盆の15日に29.5mm、27日の2.5mmのみで他の日は殆ど0に近かったです。最高気温35℃を超える猛暑日が7日もあり、植物たちにとっては過酷な日々が続きました。私たちは、水戸市植物公園のお世話で、8月15日に花苗を購入し18日に植栽をしましたが、その後も一向に降雨の気配もなく、太陽の日差しを恨めしく思ったものです。

しかし、熱中症対策をしながら朝夕の涼しい時間に水やりを努め、何とか花苗たちも頑張ってくれました。10月には、元気な姿でお客様をお迎え出来ることでしょう。

研修を兼ねて訪れた水戸市植物公園では、牧野富太郎博士の展示を開催しており、見識を深める機会となりました。

### 5周年!朝活で広がる偕楽園公園の魅力と健康づくりの輪 魅力向上委員会



清々しい朝日を浴びながら朝活

毎月第3土曜日に開催している朝活ヨガ&ポスチャー(姿勢)ウォーキングが8月に5周年を迎えました。毎月、欠かさずご参加くださる方も増えて、「近所を歩いたら姿勢を褒められました」「ヨガで体調が良くなりました」「身近にこんな素晴らしい場所があったなんて感動です!」などの嬉しいお声や笑顔に元気をいただいています。

夏はどこまでも真っ青な空が広がり、秋は澄んだ空気が清々しく凍てつくような冬を越えた後は梅の花が

春が来たことを教えてくれます。

今後も偕楽園公園の魅力向上や健康づくりの輪を広げる活動にしていきたいと思えます。

### 思いやりの心を育てる 弘道館やさしい論語塾 論語委員会

令和5年度の論語塾も小坏のり子先生と小堀優先生が講師を務めてくださり、弘道館で授業を行っています。先生方のお話に熱心に耳を傾け、姿勢を正して論語を素読される皆様の姿や、至善堂から見える四季折々の美しさに心が洗われます。

8月は安岡定子先生にお越しいただき特別講座を開催しました。一年に1回の授業を楽しみにしていた方も多かったと思えます。

孔子と弟子たちのやり取りを交えながら、論語の魅力や思いやりの大切さを分かりやすくご指導いただきました。

今後は幅広い年代の方に関心を持っていただけるよう活動したいです。



論語の奥深い世界を解説される安岡定子先生



# 委員会だより

## 第14回大名庭園サミット高松大会に本会の役員が参加します。交流委員会

新型コロナウイルス感染症のため3年間の空白期があった大名庭園サミットが10月に高松市で開催されます。大名庭園として知られる栗林公園は、高松藩主松平家の別邸として歴代藩主に引き継がれてきた名園です。久しぶりの大名庭園サミット参加で大いに研鑽を積んで参ります。

日程：11月9日 11時30分 代表者会議 13時 一般会議

11月10日 午前中 エクスカーション

(栗林公園の見学)

参加者：三ツ石会長、幡谷、埴、鈴木重文、岡野



栗林公園

## 会員の活動から 梅染めに取り組む

5年前に偕楽園の魅力向上のために、本会では偕楽園の梅の剪定枝を活用した「梅染め」を水戸ユネスコ協会と協力して研究を進めてきました。観梅時期には梅大使に梅染めマスクやハンカチを贈り、たいへん喜ばれております。また、今年で3回目となる梅染めの展示会には会員が梅染めした生地で作った洋服を製作し、来場者の方を楽しませております。8月11日に偕楽園内で開催した一般の方対象の梅染めワークショップ(前半・後半計43名参加)には、水戸ユネスコ協会の皆さんとともに当会の鹿熊律子さんが講師を務めました。今後は、梅をはじめ、偕楽園に植生する植物を活用した工芸品や、お土産を提案することを通して偕楽園の魅力を発信する手立てになることが期待されます。



梅染めワークショップの講師を務める鹿熊さん

## 今後の行事案内

### 紅葉狩りウォーキングと偕に楽しむつどいのご案内

日時：11月23日(木) 10時～14時30分 受付9時30分～

集合場所：偕楽園窈窕広場 受付は偕楽園公園センター

コース：窈窕広場→花追橋→偕楽橋→大日本史完成の地碑→偕楽園東門→トイレ休憩→南崖の洞窟→仙湖莫雪の碑→正岡子規の碑→偕楽園記碑→七曲り坂→観梅碑→吐玉泉→トイレ休憩→梅桜橋→玉龍泉→護国神社→もみじ谷→窈窕広場(約2km強)

募集人数：40名 参加費：600円(お弁当と保険を含む) 申し込み：先着順

問合せ・申込み

三ツ石 まで(TEL:090-8563-5181、E-mail:mitsusat@ybb.ne.jp)

お名前、ご住所、連絡先、年令をご連絡ください。

## 編集後記

会報が発行される頃は秋たけなわといったところでしょうか、今夏は記録破りの猛暑が何日も続き、ほぼ毎日エアコンを付けばなしのご家庭が多かったと思います。今年の秋こそ、コロナを気にすることなく爽やかな秋空の下で、偕楽園をゆっくり周遊して新しい発見をしたいものです。(K)

偕楽園公園を愛する市民の会 事務局

住所：〒312-0041 ひたちなか市西大島3-14-9 TEL：090-8563-5181/FAX：029-272-8303

発行：偕楽園公園を愛する市民の会

協力：(株)ロシナンテ ※当会へのお問い合わせは事務局まで